

日本防災士会奈良県支部「防災研修」 報告書

- 1 日 時：平成 23 年 6 月 5 日（日）13:00～15:30
- 2 場 所：奈良市防災センター 2 F 研修室
- 3 主 催：日本防災士会奈良県支部
- 4 出席者：防災士 48 名
- 5 講 師：神戸防災技術者の会（元神戸市職員）
NPO 法人都市災害に備える技術者の会
神戸クロスロード研究会理事
神戸防災技術者の会 神戸市水道局東部センター長
陪 席：NPO 法人都市災害に備える技術者の会
防災士（教育研修部長） 奈良市消防局災害対策室長

6 研修内容

(1) 第一部 (13:00～14:00) 講演の部

講師：

演題：「阪神・淡路大震災で学んだこと、そして東日本大震災からの復興を願って」

1 阪神・淡路大震災

① 震度「7」その時は

- ・直下型地震では避難する時間など無い
- ・10 秒もかからず倒壊する E-デフェンスの実験ビデオを映写
- ・地震なり津波に対してこの程度という思い込みが被害を増大する

② その時の市民生活は

- ・倒壊した住宅の下敷きになった人は約 35,000 人と推定
- ・救出したのは地域の住民が 8 割以上
- ・警察、消防、自衛隊には人力的な制限があり、地域の人が地域の人を救出する訓練を
- ・クラッシュ症候群を塞ぐためにも近所の人が救出を
- ・家具の倒壊防止や置き方の工夫を
- ・日頃の小さな取り組みが減災に繋がる
- ・(避難所のタイプ)・地域リーダー型・教職員リーダー型
- ・ボランティアリーダー型・行政主導型

→ (自律の大切さ)

→ (被災者同士の連帯感)

③ 被災したまちの復興は

- ・被災した市民が復興計画の中心
- ・被災の経験から安全なまちづくり案を提案

- 2 東日本大震災の被災状況は
 - ・海溝型と直下型地震により被災の内容が異なる
 - ・巨大、広域、複合の被災地の復興は地域性を考慮して「命」「財産」の確保に加え「生活の糧」を確保する計画を被災者自身が参画し、連帯することが大切と感じている
- 3 阪神・淡路大震災で学んだこと（自助・共助・公助）
 - ・南海地震被災時は奈良県から隣県への支援が求められている
 - ・防災士の皆さんは地域の中心で活躍の期待



熱心に講義を聞く防災士の皆さん

(2) 第二部（14:00～15:00） クロスロードゲームの部

ファシリテーター

コメンテーター

- 1 クロスロードゲームの説明
- 2 クロスロードゲームの実施

※クロスロードゲームとは、防災に関する取り組みにしばしば見られるジレンマ「こちらを立てればあちらが立たず」を素材として、参加者が自分自身で二者択一の設問にYESまたはNOの判断を下す事を通じて、防災を「他人事」ではなく「我が事」として考え、同時に相互に意見を交わすことを狙いとする集団ゲームです。

出席者全員を1組7名と5名の班に分け、出題と解説・コメントを交えながら進めていった。

設問は次の4題であった。

- 設問 1 貴方は食糧担当の職員
被災から数時間。避難所には 3,000 人が避難していると確かな情報が得られた。現時点で確保できた食糧は 2,000 食。以降の見通しは今のところなし。まず、2,000 食配る？
- 設問 2 貴方は一般企業の父親
会社にいる。地震直後。交通は完全にマヒ。家族と連絡がとれず、安否が気になるが、上司と部下の安全を確保する責任もある。自分の仕事を優先するか？帰宅して家族の安否を確認するか？
- 設問 3 貴方は高齢者
年金生活だが、自宅のローンは退職金で払い終わった。別居している息子は古い家だから、耐震診断を勧める。しかし、費用約 10 万円は年金暮らしの身には安くない金額
貴方は耐震診断を受ける？
- 設問 4 貴方は川沿いの集落の住民
母（55 歳）、妻、小学生の子供 2 人の 5 人家族。激しい雨が降り続けている。今、洪水の危険があるとして集落に避難勧告が出たことを防災無線で知った。しかし現在深夜 12 時。
今すぐ避難を始める？



コメンテーターの説明を聞く防災士



悩んでいる防災士

(3) 第三部（15:00～15:30） 報告の部

報告者：

内 容：「奈良市災害支援ボランティア」に参加した氏から、奈良市をバスで出発して現地へ行き、昼間の支援の状況、夕方や朝のボランティア自身の生活状態など詳細な報告があった。報告の途中被災者の方から大津波で夫婦必死で逃げた時の様子を聞かせて頂いたことを思い出されて言葉を詰まらせる場面もありました。

(以上)